論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第　1283　号	氏　名	田川　正人
論　文　審　査　担　当　者		主査教授　森田　公一 副査教授　高橋　晴雄 副査教授　増崎　英明	

論文審査の結果の要旨

１．研究目的の評価

本研究は感音性難聴の主たる原因の１つとされる先天性サイトメガロウイルス（ＣＭＶ）感染が我が国における両側性高度感音性難聴の発生にどのような影響を与えているかを後方視的に明らかにしようとするものであり、研究の動機や目的は妥当である。

２．研究方法の評価

長崎県下の聾学校に在籍、卒業した生徒を調査対象とし書面による同意をえたのちウイルス学的な精査を実施したことは倫理的にも学術的にも適切である。また我が国の古くからの風習である臍帯保存に着目し、乾燥した臍帯からＤＮＡを抽出しリアルタイムＰＣＲ法によりＣＭＶ遺伝子ＤＮＡを定量し宿主遺伝子量と比較してＣＭＶ遺伝子の多寡を評価した手法も妥当である。

３．解析・考察の評価

上記の手法による一連の解析により、26 名の両側性高度感音性難聴児のうち 3 名（12%）の保存臍帯からＣＭＶ遺伝子が検出され、無症候性のＣＭＶ感染があったと推測した。非対称性難聴、進行性難聴はＣＭＶ陽性群にだけ認められたのに対し、感音性難聴の家族歴を持つ 9 名はすべてＣＭＶ陰性群であった。

以上のように、本論文は両側性高度感音性難聴において高い割合で先天性のＣＭＶ感染があったことを保存臍帯を用いて後方視的に証明し、かつこれらの症例は子宮内発育遅延、非対称性の聴力障害、発症後の症状進行などの特徴を有することを明らかにしたものであり、ＣＭＶ感染に関連して発生する後天性難聴の疫学・病態の解明に貢献するところ大であり、審査員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。